

教材名（活動名） 静岡県産業について	学 校 名	沼津市立開北小学校
	学年・人数	3年生 56人
	教 科 等	社会科
実施時期 平成27年5月下旬	授 業 場 所	多目的室
	連 携 機 関	沼津市 農林農地課

ねらい

静岡県で生産しているお茶の生産量が、全国でも1番だと知った子どもたちが、お茶の淹れ方や、お茶の成分等について学習することで、お茶に対する興味・関心を高める。

学習（活動）内容

- 1 静岡県でつくっている物には何があるか。
 - ・ミカン ・すいか ・わさび ・お茶



- 2 お茶を作っているのは、静岡県が1番なんだよ。*子どもたちはとても驚いていた。
- 3 緑茶を飲んだことのある人 *学年の半数くらいの子どもが挙手をする。
 - ・苦いからきらい。 ・飲みにくい。 ・おいしくないよ。
- 4 今日は、静岡県で作られているお茶の苦くない淹れ方や、お茶の栄養素について勉強するよ。
 - ・苦くないお茶なんてないよ。 ・楽しみだな。 ・早く飲んでみたい。



- 5 苦くない淹れ方を実演してもらい、1人1つ紙コップに入れてもらい飲む。
 - ・おいしい。 ・苦くない！ ・お茶っ葉が開いている。
 - ・もっと飲みたいな。 ・初めて飲んだ。 ・家でもこの入れ方で淹れてみたい。



- 6 この緑茶に、お茶の成分は何パーセントくらい含まれていると思う。
・半分くらいかな。 ・もっと入っているよ。 ・少なくないんじゃないかな。
- 7 実はこの緑茶には、お茶の成分が30パーセントしか含まれていないんだよ。
・たったそれだけなの。 ・少ないな。 ・残りの栄養はどこにいったの。
- 8 この急須に残っているよ。ポン酢をかけて食べてみよう。
・お茶って食べられるんだ。 ・食べてみたい。 ・おいしいのかな。
*希望した子は、ポン酢をかけてお茶を食べた。
・おいしい。 ・ちょっと苦いかな。 ・こんな風に食べられるなんて知らなかった。
・前に給食でお茶ご飯が出たな。
- 9 今日分かったことや思ったことを感想カードに書こう。
・初めて緑茶を飲んだけど、思っていたより苦くなくてびっくりしました。今日、教えてもらったお茶の淹れ方を家に帰ってやってみたいと思いました。
・お茶の成分が30パーセントしか緑茶には含まれていないなんて知りませんでした。ポン酢をかけて食べてみたら、苦くなくておいしかったです。
・お茶の生産量は、静岡県が全国で1番と聞いて驚きました。お茶のことについて、いろいろ知ることができました。

成果

- ・体験学習だったので、どの子も意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・緑茶を飲んだことがない子どもが、「緑茶は苦い。」という意識をもたずにお茶を飲むことができた。
- ・お茶の淹れ方や種類など、知らないことばかりだったので、子どもたちのお茶に対する興味・関心が高まった。

留意点

- ・お茶がこぼれてしまったので、こぼれても大丈夫な場所で行う。
- ・お茶のもらい方にルールを決めておかないと、大混雑してしまう。
- ・アレルギーがある子どもに対する配慮が必要である。

教材名（活動名） せい茶を日本一に	学 校 名	伊豆の国市立大仁小学校
	学年・人数	3学年 25人
	教 科 等	道徳
実施時期 平成27年5月	授 業 場 所	3年2組 教室
	連 携 機 関	なし
ねらい 郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。		
学習（活動）内容 1 今日朝食に何を食べてきたかな。 ・パン ・ご飯 ・おかず ・牛乳 ・お茶 2 資料「せい茶を日本一に」を読んで話し合おう。 (1) 静岡県のお茶づくりについて知っていることをあげてみよう。 ・学区にある浮橋地区でお茶を作っているところがあるよ。 ・韮山反射炉の近くにお茶畑があるよ。 ・静岡県はお茶が有名だよ。 (2) どうして静岡県は日本一のお茶の名産地になったのだろう。 ・日本で一番早く『あら茶もみき』という機械を作って製茶の方法を変えたから。 ・松下さんが機械の使い方を教えに行き、そのたびに手もみと機械の味を比べて、変わらないことを分かったから。 ・お茶の生産がぐんと増えたのは、松下さんが苦労して機械を広めたからなんだね。 (3) 今日の授業の感想を伝え合おう。 ・お茶を作る機械が静岡県で作られて広まったなんてすごいな。 ・これからも静岡県でたくさんお茶が作られるといいな。 ・私たちは、夏は冷たくして飲んだり、冬はお茶うがいをしたりするから、お茶は大切だね。 3 お茶を飲んでみよう。 (1) 急須で入れよう。 ・初めてお茶をいれたよ。 ・お茶のいれ方ってあるんだね。 (2) お茶を飲んでみよう。 ・おいしいね。家でもやってみよう。 ・お茶を飲むと体にいいっておばあちゃんが言ってたよ。		
成果 3世代同居の家が多く、日常の食事でお茶が食卓にのる機会の多い地域である。普段何気なく飲んでいるお茶が、日本をそして静岡を代表するものであることを知り、改めてお茶を見直すことができた。また、その後の活動では、お茶には殺菌作用があることや、天ぷらなど様々な料理の食材としても使われることがあることを調べてきた子もいた。		
留意点 製茶の方法について、子どもたちには馴染みがないので、写真や挿絵を拡大して理解を深める手立てとした。また、学区にあるお茶畑の写真も提示して、身近に感じられるようにした。		

教材名（活動名） お茶はかせになろう	学 校 名	掛川市立第二小学校
	学年・人数	3年生 95名
	教 科 等	総合的な学習の時間
実施時期 平成27年9月中旬	授 業 場 所	家庭科室
	連 携 機 関	日本茶インストラクター協会 静岡県支部

ねらい

日本茶インストラクターの説明を聞き、おいしいお茶の淹れ方を体験したり、お茶の健康効果を学んだりすることを通して、これからの生活で進んでお茶を淹れて飲む態度を育てる。

学習（活動）内容

- 1 静岡県では、たくさんのお茶が作られていることを知る。
 - (1) 掛川では、深蒸し茶が多く作られている。
 - (2) 見学した「お茶の郷」がある牧之原は、日本最大のお茶の産地。
 - (3) 静岡県は、温かい気候、雨の降る量、水はけの良い土地があることで、お茶が栽培できる場所が多くあること。
- 2 普通煎茶の淹れ方を体験する。
 - (1) インストラクターが、お茶の淹れ方の一通りの流れを見せる。
 - (2) 児童4～5人グループに1人のインストラクターが付き、体験する。
 - ア ポットから湯飲み茶碗にお湯を入れ、適度な温度に冷ます。
 - イ 急須に人数分の茶葉を入れる。
 - ウ 冷ましたお湯を急須に入れる。
 - エ 時間を計り、1分程待つ。
 - オ 湯飲み茶碗に順番につぐ。
 - (3) 体験を通して、1煎目、2煎目、3煎目のお茶の淹れ方の違いと味の違いを知る。
 - ア 2煎目からは、蒸らす時間を短くする。
 - イ だんだん渋くなっていく。

静岡県の地図を掲示して、お茶処の産地であることを分かりやすくする。

一番よく飲まれている普通煎茶の葉を使用する。火傷をしないように、お湯の扱いに注意させる。

一度淹れた茶葉は捨てないで、2煎目、3煎目もおいしく飲める体験をさせることで、大切にお茶の葉を使うことができるようにする。



3 お茶に含まれている成分を知り、お茶を飲むことは、健康に良いことを知る。

- カテキン …虫歯予防になり、食後にお茶を飲むと良い。食中毒を予防できる。
- カフェイン…頭をすっきりさせる成分。朝、お茶を飲むと、目が覚める。
- ビタミンC…風邪を予防できる。肌にうるおいを与える。
- テアニン …気持ちをリラックスさせる。

お茶に含まれる成分は、子どもに分かりやすい絵を使って説明する。

児童の学習カード

お茶の出前教室で、学んだこと

1番目	2番目	3番目
		
湯のみ	湯のみ	湯のみ

お茶の入れ方について教えてもらいました。一番目は、前からわたしたちがやっていたやり方でした。でも、にが味が少しおいしかったです。2番目は少しづつ入れ方で、きゅうすにお湯を入れ、湯さましに全部入れて、湯のみに入れました。3番目は、2番目と少しづつ、たやり方でした。わたしは、2番目の入れ方でやりました。おいしく出来たので家族にもお茶を入れてあげたいです。

<帰ったことやおいしくお茶をいれるコツを、くわしく絵や文で表そう。>



振り返りから

- いつもと違って、お茶のいい香りがした。飲んでみると苦い中に甘味があって、おいしくいれることができた。
- 家でも自分でお茶をいれて、家の人に飲んでもらいたい。

成果

家庭での復習用として、日本茶インストラクター協会から一煎パックをいただいたので、児童が学校で体験したことを活かして、家の人にお茶を淹れたり、インストラクターからお話を聞いたことを伝えたりして、学んだことを実践することができた。

留意点

1回の体験で終わらず、この授業から発展して、興味をもったことを今後の総合的な学習の時間につなげるようにする。

教材名（活動名） お茶博士になろう	学 校 名	御前崎市立御前崎小学校
	学年・人数	3年生 40人
	教 科 等	総合的な学習の時間
実施時期 平成27年7月1日	授 業 場 所	家庭科室
	連 携 機 関	JA
ねらい お茶に関する講話を聞いたり、実際に淹れたりすることを通して、そのおいしさを感じ、お茶に対する関心を高める。		
学習（活動）内容		
<p>1 お茶ってどうやってできているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> お茶の木の実物を見せ、パンフレットを参考にJAの方のお話を聞き、お茶の育て方、歴史、効能について知らせる。 		
<p>2 お茶にはどんな種類があるのかな。</p> <p>(1) 実際に5種類（玄米茶、ほうじ茶、緑茶、茎茶、抹茶）の茶葉を用意し、触ったり、においを嗅いだりして、違いに気付かせる。</p> <p>(2) クイズ形式でコップに入った紅茶、ウーロン茶、ほうじ茶の飲み比べをさせる。</p>		
<p>3 おいしいお茶を入れてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に一人ずつお茶を淹れる体験をさせる。その際、色を見たり、においをかいだりするよう声をかけることで、味だけでなく、色やにおい、見た目でも楽しむことができるようにする。 		
<p>4 お茶博士になれたかな？クイズに挑戦しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめとしてお茶〇×クイズを行い、振り返りを行う。 		
成果		
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちのお茶への興味を深めることができた。 総合的な学習での調べ学習に活用することができた。 		
留意点		
御前崎市は、お茶の生産が盛んであるが、本校学区は、お茶畑が少なく、これまで、3年生で水産物の学習を行ってきた。お茶の学習は本年度初めての学習である。		

教材名（活動名） 島田市のものづくりについて調べよう	学 校 名	島田市立伊太小学校
	学年・人数	3年生 14名
	教 科 等	社会科
実施時期 平成26年11月28日	授 業 場 所	お茶の郷博物館・野菜茶業研究所
	連 携 機 関	なし

ねらい

お茶の郷や野菜茶業研究所に行き、お茶の歴史にふれたり、実際に茶工場を見学したりする活動を通して、島田市のものづくりについての理解を深める。

学習（活動）内容

1 お茶の郷見学

- (1) お茶の歴史や起源についての説明
- (2) 世界の茶葉・茶器の見学



一口に「お茶」と言っても、日本のような緑茶は外国においては見られないことを知った。また、お茶の淹れ方や茶器も様々なものがあることがわかった。

- (3) 抹茶作り・世界のお茶の試飲

【感想】

- ・お茶は、もともと日本だけの飲み物ではなかったことに驚いた。
- ・世界には、いろいろな種類のお茶があって、おもしろい。
- ・日本のお茶は苦いけれど、外国のお茶は甘いものもある。
- ・静岡県のお茶畑は東京ドーム1000個分以上の広さがあるからすごい。

2 野菜茶業研究所見学

- (1) 製茶の機械について、見学と説明



【感想】

- ・いろいろな種類の機械があって、製茶ができることが分かった。
- ・機械が大きかった。
- ・お茶の機械について詳しいことが分かってよかった。

※後日、学んだことをパンフレットにまとめ交流し、感想を述べ合った。

成果

実物（茶葉・茶器・機械等）を見たことにより、お茶の栽培の難しさや工夫を直に感じ、島田のものづくりについての関心を高めたり、理解を深めたりすることができた。

留意点

事後のパンフレット作りの際、「他の地区の人にお茶の素晴らしさを伝えるパンフレットを作ろう。」と投げかけたため、「お茶についての紹介」が多く、「ものづくり＝人」という視点から外れたまとめが見られた。「お茶ができるまで」「お茶づくりの秘密」など、人を視点にまとめる工夫をするとよい。